

砂防えん堤など視察

スリランカ職員
土砂災害対策研修

スリランカの国家建設研究所の職員5人が18日、土砂災害対策の研修で本県を訪れ、県内の地滑り防止施設や

砂防えん堤などを視察した。国際協力機構(JICA)が進める土砂災害対策能力強化プロジェクトの一環。

静岡市駿河区丸子の砂防えん堤では、県砂防課の職員が過去に発生した土砂災害の様子を紹介し、えん堤の構造や土砂を食い止める機能、工事費用などについて解説した。

研修の運営担当者によると、スリランカでは山間地や急斜面に住む人が多く、土砂災害もたびたび発生している一方、土石流対策は進んでいないという。研修に参加したワナスンダラ・アビータさん(30)は「日本の技術を活用すれば、土砂災害対策施設の建設コストを抑えることができる。研修で学んだことをスリランカの土砂災害対策に生かしたい」と話した。



県砂防課の職員から砂防えん堤の説明を受けるスリランカ政府の職員＝18日午後、静岡市駿河区